

万博の理念を継承へ

注目の交流
センター開所 環境配慮の施設など視察

知団
愛議
党県

2005年に開催された愛知万博の長久手会場跡地を利用した「愛・地球博記念公園」(愛称モリコロパーク)に、環境をテーマにした同万博の理念と成果を継承、発展させていく場として「地球市民交流センター」が新しく整備され、先月オープンした。公明党愛知県議団(渡会克明団長)は先ごろ、同セン



ターを視察し、関係者から話を聞いた。同センターは、市民参加による活動や交流の拠点としての役割を担うだけでなく、災害時には中核広域防災活動拠点にもなる。施設は環境に配慮し太陽光発電やドライミスト、外気などを取り入れて温度を調節する環境技術を導入。これによって、建物全体で年間150トンの二酸化炭素(CO₂)削減効果が期待できる。また体験学習室や多目的室、体育館などを備え、共力を合わせる協働の観点から市民が自分たちで考えたプログラムを実施することが可能。職員によると、同センターでの活動には企業や団体、大学なども参加しており、全国的にも珍しいケースになり

ドライミストを体験する党愛知県議団(左側4人)

るといふ。視察後、渡会団長は同センターについて「子どもたちの遠足場」と述べた。所々でも利用してもらい、環境について身近に感じてもらいたい」と述べた。